次期「境港市まちづくり総合プラン」体系図

資料２

基本構想（まちづくりビジョン）

基本理念

①魅力と活気に満ちたまち

特定第三種漁港「境漁港」、重要港湾「境港」、国際空港「米子鬼太郎空港」という重要な社会基盤である３つの「港」、日本有数の水揚量を誇る水産資源、水木しげるロードや海などの観光資源を生かし、産業振興や観光振興を図ることで、市民や本市を訪れる人の笑顔があふれ、賑わいのある活気に満ちたまちづくりをめざします。

②心豊かに、共に生き、支え合うまち

福祉、教育環境の向上に努め、子どもから高齢者まであらゆる世代、障がい者や外国人などすべての人々が、互いを尊重し合い、支え合う共生社会の実現とともに、他の地域との連携による共生や自然との共生を図り、笑顔があふれ、安心・安全な共生のまちづくりをめざします。

【将来都市像】

「環日本海オアシス都市」

～　笑顔あふれる

日本一住みたいまち　境港　～

本市はこれまで、重要港湾「境港」、特定第三種漁港「境漁港」、国際空港「米子鬼太郎空港」という重要な社会基盤である３つの「港」と日本有数の水揚量を誇る水産資源、水木しげるロードや海などの観光資源を生かしたまちづくりに加え、魅力と活気にあふれ、心豊かに、安心して暮らせるまちづくりを進めることで、「環日本海オアシス都市」の実現に向け、着実に歩みを進めてきました。

しかしながら、世界規模のコロナ禍に見舞われ、国内外との活発な人の行き交いがなくなるなど、本市にとっても大きな影響がありましたが、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、今後も、本市の特性を活かし、砂漠の中の「オアシス」のように国内外から人やものが寄り集り、笑顔があふれるまちになることをめざし、「環日本海オアシス都市 ～笑顔あふれる　日本一住みたいまち　境港～ 」を将来都市像とします。

基本目標

１　誰もが安心して元気に暮らす支え愛のまちづくり

【分野：子育て・健康・福祉】

子どもは地域の宝であり、大切な宝をより増やしていくことが必要です。これまでも「子育てするなら境港」を掲げ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない総合的な支援に取り組んできましたが、一層きめ細やかに、家庭に寄り添った支援や保育の質やサービスの向上に取組み、安心して産み、育てられる環境づくりを図ります。

また、高齢者や障がいのある方々が住み慣れた地域で生きがいを持ち、元気で安心して暮らし続けることができ、災害時だけでなく、平時の見守りや買い物支援など、地域の支え愛活動を推進します。さらに、日頃からの定期的な健診の受診を推進するとともに、フレイル予防を一層推進し、健康寿命の延伸を図ります。

２　さかな・鬼太郎・港を生かしたまちづくり

【分野：観光・産業・広域連携】

累計入込客が4,000万人を突破した水木しげるロードは、さらなる魅力向上のため、水木しげる記念館の建て替えを行うとともに、境夢みなとターミナルや弓ヶ浜サイクリングコースなどの新たな観光資源や美保湾、弓ヶ浜を活用し、港や海辺を生かした賑わいづくりを図るなど、さらなる観光振興に取り組みます。

産業面では、高度衛生管理型漁港・市場整備とともに、水産物のさらなる付加価値の向上を図り、境港ブランドを日本一のブランドに育て、農業においては、若者にとって魅力ある産業として育成します。

中海・宍道湖・大山圏域で連携し、広域観光や企業誘致を進め、雇用創出を図ります。この圏域があたかも「ひとつのまち」として生活圏を形成するため、米子－境港間の高規格道路をはじめとする「８の字ルート」の早期実現に向け、圏域一丸となって取り組みます。

３　地域を担う人を育むまちづくり

【分野：教育・文化】

「市民一人ひとりを大切にした教育の実現」に向け、コミュニティスクールを学校・地域・家庭がパートナーとして、密接に連携・協働し、社会総がかりで取り組んでいくとともに、子どものうちから、地域の産業や文化、まちの未来について考える機会を設けることで、ふるさと境港に愛着を持つ子どもを育んでいきます。

教育現場においては、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて、整備されたＩＣＴ環境を活用し、児童生徒の資質・能力の向上に取り組みます。

文化・芸術の拠点となる「境港市民交流センター」は「みんなが集まる広場のような複合施設」の基本理念のもと、子どもから高齢者まで多くの人々が気軽に集い、賑わいをあふれる施設をめざします。施設の中核を担う「図書館」は、図書の充実に加え、子育て支援・障がい者支援・ビジネス支援にも取り組みます。

４　自然と共に安全で住みよいまちづくり

【分野：環境・都市基盤・防災】

2050年を目標に、温室効果ガスの排出を実質ゼロとするゼロカーボンシティをめざし、持続可能な脱炭素社会の実現に向けた取組を行うとともに、海洋プラスチックごみ問題をはじめとする海や海辺を守る取組やゴミの減量化を図ることで、他に誇れる美しい自然環境を守り、後世に引き継いでいきます。

あらゆる年代・境遇の人々が互いを尊重し合って支え合い、心豊かに暮らしていける共生社会の実現をめざすとともに、市民生活に密着したインフラの整備を行うほか、市内で増加している空家を、地域の特性を踏まえた利活用や解体支援などを通じ移住定住につなげ、地域に賑わいと活力を生み出すまちづくりに取り組みます。

また、全国各地で地震や豪雨などによる大規模災害が起きており、令和４年７月に開館予定の「境港市民交流センター」に市の防災機能を移転させ、防災体制の充実を図り、日ごろからの備えとともに、自助・共助による地域防災力の底上げに取り組みます。

５　未来につけを回さないまちづくり

【分野：協働・デジタル化・行財政】

行政運営においては、行政、自治会、市民団体、民間企業などがそれぞれの特徴を活かしながら、地域の課題を解決していくための対等なパートナーとして、様々な形で連携し、協力し合いよりよいまちをつくりあげていく「協働のまちづくり」を引き続き推進していきます。

また、デジタル化に取り組むことにより、市民生活の利便性の向上を図り、また業務の効率化により、市民サービスの向上も図っていくとともに、社会保障関連経費の増大に加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う大規模な財政出動や税収の落ち込みが、国の財政状況を一層深刻なものとし、地方財政にも影を落としている中、移住の促進等により自主財源の確保を図るなど、未来につけを回さない行財政運営に取り組みます。

基本計画（まちづくりプラン）

具体的施策（案）		施策の展開方針	
1-1	出会いから妊娠・出産に至るまでの支援		
1-2	保育環境・保育サービスの充実		
1-3	家庭に寄り添った子育て支援の推進		
1-4	子育てと仕事の両立の推進		
1-5	市民の健康づくり（健康寿命の延伸）の推進		
1-6	高齢者の方が地域で元気に生活できる体制の構築		
1-7	障がいのある方が地域で安心して暮らせる社会の構築		
1-8	多文化共生社会の実現		
1-9	互いの人権を尊重する社会の実現		
1-10	生活困窮者に対する支援の充実		
2-1	さかな・鬼太郎を核とした観光振興		
2-2	みなとや海辺を生かした賑わいづくり		
2-3	東アジアのゲートウェイ境港・米子鬼太郎空港の利用促進		
2-4	境漁港の高度衛生管理型漁港・市場整備の促進		
2-5	鮮魚・加工品・産地境港のブランド化と情報発信の推進		
2-6	西日本を代表する白ねぎ産地としての発展		
2-7	企業誘致や創業支援の推進		
2-8	地元企業の振興（販路拡大・事業継承の支援など）		
2-9	地域資源を生かすための中海・宍道湖・大山圏域で連携した取り組みの推進		
3-1	一人ひとりを大切にした教育環境の充実		
3-2	英語教育やＩＣＴ環境を活用した学校教育の充実		
3-3	ふるさと境港への愛着を育む教育や活動の推進（ふるさと教育・地産地消による食育活動など）		
3-4	コミュニティスクールの活動推進		
3-5	文化芸術活動の推進		
3-6	図書館機能の強化による読書活動や各種支援の充実		
3-7	生涯学習の推進		
4-1	持続可能な脱炭素社会の実現		
4-2	他に誇れる海や海辺との共生		
4-3	快適な生活環境づくり（空家の解体促進・防犯対策など）		
4-4	空家の利活用などによる地域の賑わいづくり		
4-5	地域の特性などに応じた土地利用		
4-6	市民生活に密着した都市基盤の整備		
4-7	公共交通の維持		
4-8	地域防災力の強化・充実		
4-9	防災・危機管理体制の強化・充実		
5-1	協働・市民参画によるまちづくりの推進		
5-2	分かりやすい広報と積極的な公聴		
5-3	デジタル化の推進		
5-4	自立・持続可能な財政基盤の堅持		